

(様式1)

令和6年度 学校評価結果報告書 (高等学校用)

(1) 学校教育目標	五所川原工科大学：校訓「誠実」「創造」「礼節」のもと、心身の発達及び徳智に於て、高度な普通教育及び工業教育を実施し、幅広い知識と教養を身に付けさせ、主体的に社会の発展に寄与する人材を育成する。
(2) 現状と課題	普通科・工業科が併置された県立高校として4年目となり、国立大学への進学から就職まで、生徒の幅広い進路選択に対応した指導が行われている。生徒指導面で支援を要する生徒も多く、スクールカウンセラー等と連携しながらきめ細やかな対応をしているが、生徒の健全な成長と自己実現を図っていくための安全安心な校内環境の更なる充実が求められている。その他、学力直しと基礎学力の向上、普通科と工業科の融和、資格取得や進路講習など生徒のニーズに応じた学習環境整備等が、今後の課題として挙げられる。
(3) 重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 本校の目指す資質・能力の育成 (教養力・探究力・表現力・協働力・自走力) 2 豊かな人間性と社会性の育成 3 信頼される学校・開かれた学校づくりの推進 4 職場環境の円滑化
(4) 結果の公表	学校ホームページで公表する。

学校整理番号	42
学校名	青森県立五所川原工科大学
全日制の課程	校舎

自己評価実施日	令和6年 1月31日 (水)
学校関係者評価実施日	令和7年 2月 5日 (水)

(9) - イ 学校関係者評価委員の構成	
学校評議員	森田順司 (東北龍開大青森校校長)
4名	桃井 透 (富士電機株式会社) 特別顧問 笠井理雄子 (PTA 会長) 安田 博 (安田自動車板金)

		自己評価			学校関係者評価	
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) - ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	(10) 次年度への課題と改善策
1	本校の目指す資質・能力の育成 (教養力・探究力・表現力・協働力・自走力)	<p>ア わかる授業の実践とICTを活用した「個別最適な学び」と主体的・対話的で深い学び」を推進する。</p> <p>イ 主体的な課題を発見し、多様な人との協働により課題解決をする探究学習を推進する。</p> <p>ウ 地元企業や上級学校、地域社会との交流推進と、キャリア教育の充実（「生きる・働く・学ぶ」）を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の向上を目指し、毎週水・金曜日に10分間の朝自習を実施した。生徒の学力向上に結び付いたかは定かでないが、遅刻の防止が落ち着いて1時間目の授業に臨む態勢作りとしては、一定の効果があった。 普通科の総合的な探究の時間や工業科の課題研究におけるグループ活動、その他学校行事等を通して、仲間と協働する意義を体感しながら課題解決能力を養うことができた。 普通科では、1年生全員による弘大オープンキャンパスへの参加の他、本校独自で県内の大学短大等の上級学校見学会を実施した。また、工業科では、東北龍開大青森校との協定に基づく様々な交流の他、県内外事業所による複数回にわたる出前授業の実施、水力・火力・風力発電所や近隣企業の見学会を開催し、進路意識向上に向けた多様な取り組みを実施することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学校評価アンケートで「進路ガイダンスや事業所見学は自分の将来を考える上で参考になっている」という質問の評価が非常に高い (3.61/4点)。インターンシップを実施せずとも、このように評価が高いということは、先生方が様々な企画してくれている証拠だと思う。我々としても「たのしい工場見学」と称し、ものづくりの体験らしさや地元定着の意義を五科生に伝えることができるよう、どんどん見学を受け入れたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度から朝自習の時間を毎日10分間設定し、全学年で導入予定のスタディサプリ (リクルート社) を活用しながら、個に応じた学力直しと自学の習慣化を図り、基礎学力の向上を目指す。 生徒のニーズに応じた放課後こぼれ学・公務員・資格取得講習等を実施しているが、実施回数を見直すなど、教職員の業務負担を軽減する必要がある。 ICTについては、課題の提出・配言や評価など、どの教員もある程度活用できている。3学期から自動採点ソフト「百問百中」の職員研修会を開催し、早速定期考査で活用する教員もいた。次年度導入予定のスタディサプリについて、生徒以上に教員自身の活用スキル向上が求められる。
2	豊かな人間性と社会性の育成	<p>ア 基本的な生活習慣の確立及び継続的指導を徹底する。</p> <p>イ 教育相談機能の充実による生徒支援の強化と、生徒一人ひとりの多様な尊重と適切な情報共有に努める。</p> <p>ウ 人権尊重の視点に基づく継続的な実践の検討と適正化を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導部による生徒玄関での朝の声掛け、工業科の実習前に行う点呼・容貌指導、監督教員も共に行う清潔活動等を通して、正しい生活習慣や倫理観等を涵養し、落ち着いた学習環境が確保されている。中でも服装容貌に関しては、極端に乱れた生徒は皆無である。 スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーから定期アドバイスをいただきながら、全教職員が心理理解のもと、支援を要する生徒に対してその保護者に対し丁寧な対応ができた。また、全校でアセスを年2回実施し、要支援生徒への対応に活用した。 いじめ防止やSNSの利用に関するクラスポリシーを、年度初めに全クラスで作成した。9月には2年生を対象に、弘大生や地域住民と共に命の大切さについて語り合う、県こども家庭部主催の「ふれあいセミナー」を開催した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 以前の工業高校時代と比べて、ここ2年くらい校内で投げてくる生徒が減ったように思います。社会でも投げる子ばかりから目をかけてもらえます。そこだけには普通科に限らず、全校一体となって挨拶を大事にして欲しいです。 毎年あるいじめの問題について、現状がどうなっているのか気になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 6年度の新たなじめの認知件数は5件で、いずれも収束している。いじめの未然防止のためにも協働的な学びを重視し、相手の意見や立場を理解し他者を尊重できる生徒の育成を目指す。 現在、生徒指導部指導だけでなく運動部と言われている。これを受け、生徒情報交換会の中で、スクールカウンセラーによる教職員向けの教育相談 (生徒支援) 研修を設定し、全職員でより生徒の人権に配慮した対応を目指す。
3	信頼される学校・開かれた学校づくりの推進	<p>ア 生徒一人ひとりの人格を認め、人権を尊重し、人命を守ることを基本理念とし、生徒一人ひとりが生き生きと学び、主体的に活動できる学校づくりを推進する。</p> <p>イ 学校ホームページや学校説明会、学校公開等による保護者及び地域への広報活動を充実させる。</p> <p>ウ ボランティア活動や地域の行事への参加による地域貢献活動と学校活性化を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体的に取り組む、運動会や文化祭、競技大会等において創意工夫を凝らし、生き生きとした活動を実施することができた。 学校行事の様子を定期的に学校公式ホームページ及びX (旧Twitter) で迅速に情報発信をすることができた。新たに取り組みとしては、学校前庭の果樹園に看板を設置し、工業科の実習成果としてレーザー加工機でカットしたクリスマスや正月柄の金属板を掲示したり、生徒玄関に高線イルミネーションを設置したりするなど、学習成果の見える化を推進した。また、小学生対象のプログラミング教室も年3回実施し、地域との交流を深めた。 生徒・教員の有志約60名が、地元企業である富士電機株式会社と立派武多に嚆子方として3日間参加し、その運行を陰から支えた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 昨年、工科高校として1回生を出し、学校が思いどおりに落ちてきている感がある。コロナなど色々あったが、先生方の御苦労が実になってきている。 立派武多の嚆子方として、毎年多くの生徒さんに参加協力していただき、本当に助かっています。若い力を借りないと、我々も運行できない状況です。また、毎年優秀な社員人材を紹介していただき、ありがとうございます。工科さんと龍開さんとの連携が充実すれば、ものづくり人材ももっと増えると思います。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍が明か活動の制限が緩和したものの、学校行事のノウハウ継承が途切れ、ある意味ゼロからのスタートのものも多々。ゆえに、過去の記録に囚わらず、また、失敗を恐れず「まっぴやってみよう」といった生徒主体の活動を増やしていく必要がある。 富士電機株式会社と立派武多の合同宣言について、学校として積極的な生徒の参加を促し、地域への愛着心を育むと共に、地域との連携協力を継続していく。また、それ以外の地域行事やボランティア活動への参加も推奨する。
4	職場環境の円滑化	<p>ア 教育公務員としての服務規律の確保 (信頼できる教師)</p> <p>イ 生徒への寄り添いと、教職員の補い合い (普通科と工業科の融和)</p> <p>ウ 心身の健康管理 (ワークライフバランス確保)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 県教委から発出された服務規律の確保に関する文書については、校長指導の下、職員朝会や職員会議でその都度内容を確認した。 普通科の就職希望生徒に対し、面接練習や小論文指導を工業科職員が担当した。また、それらの生徒に対し、工業技術基礎を履修させ、文書の制作やプログラミングの実習を行った。 教職員同士が互いの業務を支援し合い、いつでも気兼ねなく年次休暇を取得できる雰囲気が高まっている。「教職員間でコミュニケーションを取りながら業務が行われている」という学校評価アンケートについては、評価平均が4.4点満点中昨年度の2.62から2.96へと上昇し、ストレスチェックの結果では、「同僚による支援の有無」が12点満点中8.3から9.4へと上昇した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の多様化に関して、我々の会社でもすごく感じるところがあります。昔の指導の仕方が通用しなくなる中で、どのように生徒と付き合っていくか。教員の皆さんがそういった生徒の特性を理解し、対応していかないと、我々も困るという部分では我々の企業も同じで、たくさんの研修を受けて勉強しております。 普通科と工業科の先生方が一緒になって活動し、それぞれが尊重し合うことが重要かと思えます。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートの「悩みや問題を相談することができる」という質問について、保護者評価が、4.4点満点中、昨年度の2.80から2.54と低下した。電話の対応時間が限定されたことが大きな要因と考えられるが、日頃から保護者との連携を密にし、教職員についても気軽に相談できるといった関係の構築は必須である。 支え合いの風潮が高まっているものの、時間外及び休日の労働時間が増えたり平均が、昨年度の月36.5時間から38.2時間へと増加した。次年度から定期考査の回数を減らし各学期1回とするが、行事の精選や教職員のICT活用方向による業務の効率化が求められる。
(11) 総括	学校教育目標に基づいた重点目標の達成状況は概ね良好であった。今後の課題としては、①生徒の実態やニーズに応じた指導で基礎学力を向上させ、生徒の進路の可能性を広げる。②ICT機器の有効的な活用を推進し、教職員のスキルアップを図りながら指導力向上と業務の軽減を図る。③普通科と工業科の融和や学校と地域の協働・連携の機会を増やすことで、人とのつながりの有用性を生徒に実感させる、等が挙げられる。					